## 力学 予習ノート 第4回

学生番号 05502211

2023年8月5日

## 1 慣性モーメントの計算例

< 例題 1 >

質量 M で半径 a の薄円盤の x,y,z 各軸の周りの慣性モーメントと回転半径を求めよ。

>>> まず単位面積あたりの質量  $\sigma$  は  $M=\pi a^2 \times \sigma$  より  $\sigma=\frac{M}{\pi a^2}$  である。z 軸周りの慣性モーメントを定義通り計算していくと

$$I_z = \int (x^2 + y^2)\sigma dS = \int \xi^2 \sigma dS = \sigma \int_0^a \int_0^{2\pi} \xi^2 \xi d\theta d\xi$$
$$= \sigma \int_0^a \xi^3 d\xi \int_0^{2\pi} d\theta = 2\pi\sigma \left[ \frac{\xi^4}{4} \right]_0^a = \frac{\pi\sigma a^4}{2} = \frac{M}{2}a^2$$

となる。ただし、 $dS=\xi d\xi d\theta$  である。これより z 軸周りの慣性モーメントは  $\frac{M}{2}a^2$  で、回転半径は  $k=\sqrt{\frac{a^2}{2}}=\frac{a}{\sqrt{2}}$  である。

円盤は対称的であることと、平板の合成則を用いて

$$I_z = I_x + I_y = 2I_x$$
  $\therefore I_x = I_y$ 

であるから、x軸及びy軸周りの慣性モーメントと回転半径は

$$I_x = I_y = \frac{I_z}{2} = \frac{M}{4}a^2$$
  $k = \sqrt{\frac{a^2}{4}} = \frac{a}{2}$ 

< 例題 2 >

質量 M、密度  $\rho$  半径 a の球の、中心周りの慣性モーメントを極座標計算で求めよ。

>>> 体積要素は 
$$dV=r^2\sin\theta dr d\theta d\phi$$
、また、 $\xi=r\sin\theta$ 、 $M=\frac{4\pi\rho a^3}{3}$ 、 $\rho=\frac{3M}{4\pi a^3}$  である。

球は中心で点対称であるから、中心を通る z 軸を任意に選び、その慣性モーメントを求めると

$$\begin{split} I_z &= \int \xi^2 \rho dV = \rho \int \int \int r^2 \sin^2 \theta \cdot r^2 \sin \theta dr d\theta d\phi \\ &= \rho \int_0^{2\pi} \int_0^{\pi} \int_0^a r^4 \sin^2 \theta \cdot \sin \theta dr d\theta d\phi = \rho \int_0^{2\pi} \int_0^{\pi} (1 - \cos^2 \theta) \sin \theta \left[ \frac{r^5}{5} \right]_0^a d\theta d\phi \\ &= \rho \frac{a^5}{5} \int_0^{2\pi} - \int_1^{-1} (1 - t^2) dt d\phi \qquad (\because \cos \theta = t, -\sin \theta d\theta = dt, 0 \to \pi : 1 \to -1) \\ &= \rho \frac{a^5}{5} \left[ t - \frac{1}{3} t^3 \right]_{-1}^1 \int_0^{2\pi} d\phi \\ &= \frac{3M}{4\pi a^3} \cdot \frac{a^5}{5} \left( \frac{2}{3} + \frac{2}{3} \right) 2\pi = \frac{2}{5} M a^2 \end{split}$$

と求まる。

<例.3>

上の例題2において、中心周りの慣性モーメントを対称性から求めよ。

>>> 対称性より  $I=I_x=I_y=I_z$  である。またそれぞれ、

$$I_x = \int \int \int \rho(y^2 + z^2) dV, \quad I_y = \int \int \int \rho(x^2 + z^2) dV, \quad I_z = \int \int \int \rho(x^2 + y^2) dV$$

であるから、

$$3I = I_x + I_y + I_z = \int \int \int 2\rho (x^2 + y^2 + z^2) dV$$

よって

$$I_{z} = I = \frac{2}{3} \int \int \int \rho r^{2} dV = \frac{2}{3} \rho \int \int \int r^{2} \cdot r^{2} \sin \theta dr d\theta d\phi$$

$$= \frac{2}{3} \rho \int_{0}^{2\pi} \int_{0}^{\pi} \int_{0}^{a} r^{4} \sin \theta dr d\theta d\phi = \frac{2}{3} \rho \left[ \frac{r^{5}}{5} \right]_{0}^{a} \int_{0}^{2\pi} \left[ -\cos \theta \right]_{0}^{\pi} d\phi$$

$$= \frac{2}{3} \cdot \frac{3M}{4\pi a^{3}} \cdot \frac{a^{5}}{5} \cdot 4\pi = \frac{2}{5} Ma^{2}$$

< 例.4 >

重心と中心が原点となるような 3 辺 a,b,c の質量 M の直方体を考える。この直方体について、各軸の慣性 モーメントと回転半径を求めよ。

>>> 密度は  $ho = \frac{M}{abc}$  である。 ${\bf z}$  軸周りの慣性モーメントは

$$\begin{split} I_z &= \int (x^2 + y^2) \rho dV = \rho \left( \int x^2 dV + \int y^2 dV \right) = \rho \int_{[c]} \int_{[b]} \int_{[a]} x^2 dx dy dz + \rho \int_{[c]} \int_{[b]} \int_{[a]} y^2 dx dy dz \\ &= \rho \int_{[c]} \int_{[b]} \left[ \frac{1}{3} x^3 \right]_{-a/2}^{a/2} dy dz + \rho \int_{[c]} \int_{[a]} \left[ \frac{1}{3} y^3 \right]_{-b/2}^{b/2} dx dz \\ &= \frac{\rho}{3} \cdot 2 \cdot \frac{a^3}{8} \int_{[c]} \int_{[b]} dy dz + \frac{\rho}{3} \cdot 2 \frac{b^3}{8} \int_{[c]} \int_{[a]} dx dz = \frac{a^3}{12} \rho \cdot bc + \frac{b^3}{12} \rho \cdot ca = \frac{\rho}{12} abc(a^2 + b^2) \\ &= \frac{M}{12} (a^2 + b^2) \end{split}$$

回転半径は  $k_z=\sqrt{\frac{I_z}{M}}=rac{\sqrt{a^2+b^2}}{2\sqrt{3}}$ .  $I_x$  と  $I_y$  も同様である。巡回置換をとって

$$I_x = \frac{M}{12}(b^2 + c^2)$$
  $k_x = \frac{\sqrt{b^2 + c^2}}{2\sqrt{3}},$   $I_y = \frac{M}{12}(c^2 + a^2)$   $k_y = \frac{\sqrt{c^2 + a^2}}{2\sqrt{3}}$ 

実体振り子について。

大きさのある振り子を考える。剛体における回転運動の運動方程式は

$$N_z = \frac{dL_z}{dt} = I_z \frac{d^2\theta}{dt^2} \tag{1}$$

であった。実体振り子の力のモーメント  $N_z$  を求めると

$$N_z = \left[ \mathbf{r}_G \times Mg\mathbf{e}_x \right]_z = Mg \left[ (x_G, y_G, 0) \times (0, 0, 1) \right]_z = -y_G Mg = -Mgh \sin \theta$$

ただし、実体振り子の質量は M、振り子の重心と  $\mathbf{x}$  軸がなす角を  $\theta$  とし、 $h=\sqrt{x_G^2+y_G^2}$   $y_G=h\sin\theta$  である。これより実体振り子の運動方程式は

$$I_z \frac{d^2 \theta}{dt^2} = -Mgh \sin \theta \simeq -Mgh\theta \tag{2}$$

となる。つまり

$$\frac{d^2\theta}{dt^2} = -\frac{Mgh}{I_*}\theta\tag{3}$$

となって

$$\omega = \sqrt{\frac{Mgh}{I_z}} \tag{4}$$

であり、一般解は

$$\theta = A\cos(\omega t + \alpha) \tag{5}$$

で与えられる。通常の単振り子の表式に習って

$$\omega' = \sqrt{\frac{g}{l_E}} \tag{6}$$

と置いたときに得られる

$$l_E \equiv \frac{I_z}{Mh} \tag{7}$$

を相当単振り子の長さという。 $I_z$  について移動則で展開すると

$$l_E = \frac{I_G + Mh^2}{Mh} = \frac{I_G}{Mh} + h = \frac{k_G^2}{h} + h$$
 (8)

となる。ここで $k_G$ は重心周りの回転半径である。

$$\frac{dl_E}{dh} = \frac{d}{dh} \left( \frac{k_G^2}{h} + h \right) = \left( -\frac{k_G^2}{h^2} + 1 \right) = 0$$

を解いて分かるように  $l_E$  は  $h=k_G$  で極小値をとる。すなわち、

$$T = 2\pi \sqrt{\frac{l_E}{g}}$$

であるから、 $h = k_G$  のとき、一番早く振動することが分かる。

## [練習問題]

(94)

質量 M で半径 a の薄円盤の x,y,z 各軸周りの慣性モーメントと回転半径 k を求めよ。

(95)

質量 M、密度  $\rho$ 、半径 a の球の、中心周りの慣性モーメントを極座標計算で求めよ。

(95-3)\*

質量 M 面密度  $\sigma$  半径 a の球殻の、中心周りの慣性モーメントを極座標計算で求めよ。また回転半径を求めよ。

(95-4)\*

質量 M 面密度  $\sigma$  半径 a の球殻の、中心周りの慣性モーメントを対称性から求めよ。

(95-5)

重心と中心が原点となるような 3 辺の a,b,c の質量 M の直方体を考える。この直方体について、各軸の慣性 モーメントと回転半径を求めよ。

(96)

重心からhだけ離れたところに軸がある実体振り子の周期を求めよ。また周期を最小にするhの値とそのときに周期の最小値を求めよ。